Weekly MEDICAL TIMES

週刊 医学通信

=(第6年・第262号)=

(昭和二十六年八月八日発行)

＝本号要目＝

▽日本医学ニウス＝骨関節結核＝永井三郎▽内科学断章(第二十九回)痛み＝承前＝柿沼昊作▽診療今日の話題＝結核の高原療法について＝小川滋男▽内外文献診療メモ＝結核性膿胸にパスの胸腔内注入療法。新結核剤バイオマイシン。ウレヒョリンとトランセチン▽談叢＝わが国精神衛生の現状並に問題＝(厚生省公衆衛生局)。医師自から生きるの道＝水口耕治。社保診療報酬支払方式修正と課税率適正化私案＝伊集院俊寛▽町医覚え帖(四一)▽ニウス＝医療資金融通法の構想。金融要望全国運動。スト・マイ在宅患者も購入自由。その他……

週間言

医療金融と医師団の信用

東前医務局長によつて『日本の医療制度は公的のものを主とし、私的のものは前者の足らない部分だけとする』という基本的な方針が樹てられた次第は、諸々の文書等にも明かな所だが理想乃至意見、希望等を言うのは至つて簡単である。然る所、国民医療の実態は、八十余年前に自然に発生してから今日までそれこそ自然に発展、普及して来た私的機関が主であつて、簡単に往診して呉れる町医者は全く国民生活に溶け入つた存在であり、ひいて私立の病院等も夫々の信頼の上に立つて、国民医療の大半は私的機関の取り扱うものとなつている。

全開発医を一挙に官公吏化するような一大革新を断行するならばとも角、ペーパープランで公的機関至上論を述べたてた所で国民医療はどうなるものでもない。在任五年に亜々とした東氏は、その最後の仕事として自からは欲する所でない強制医薬分業の法律化に当つたが、さてその代償という訳でもあるまいが公私の医療機関を充実、改善する資金を、政府として面倒を見なければなるまいという結論に達した所でバトンを阿部新局長に渡した。

別項に載道されているような「医療資金融通法の構想」は、厚生省医務局試案として洵に結構なものである事は言うまでもない。われらの立場から言えばかようなことこそは医師団(その中枢日本医師会)によつて打ち立てられ、医界の総意と熱意とをもつて積極的に運動し、獲得せねばならぬ事案と思われる。然るに実際には、ともすれば「官僚ども」などと漫罵しているその官僚によつて立案されそして「ついて来ないか」と水を向けられているのである。医政運動の微弱、医師会事業の空念仏は今に始らぬが、われら第三者が医師会人に対して悪意の批判を行つているのでないことはこの間の消息でも分明であろうと思う。見るにたえないことどもが余りに多すぎるのだ。

さて結構な案が出来たと云つても、それはまた厚生省限りのことであつて、一般会計なり、見返り資金なりに財源を仰がなければならないのだから大蔵省を「ウン」と云わせる大仕事はこれからだ。医療の公共性は何人にも承認されている所、次は医業に従う人とその集団の信用があつて資金は始めて動く。医師会の政治力は他の社会からは相当高く買われている筈だが、公人として、将た又公の大きな団体としての信用は昨今どのようなものであるか。「日本医師会というのは誰を相手に相談したらよいのか分らない」と言われるようでは凡そ問題にならないのである。日医現幹部は「診報」調査会以来の世評を虚心検討する必要があろう。

それに最近の問題が一つ。というのは、七月二十一日の代議員会で「技術料を原価計算せんとする如何なる打合せ会にも代表を送らない」とハッキリ議決し、これに従つて厚生省に設置の原価計算方式打合せ会に送つた川島、黒沢、萩原三委員を引きあげたにも拘わらず、医務局長の懇請があると直ちにOKで出席している。性格論を云為して「技術料の原価計算が出てもこれは今後の技術料に関係がない」などと條件をつけたと云つても、趣旨簡明な議決をちらりんしていることは明々白々、議論の余地はない。代議員会という最高の意志決定機関が泣くであろう。内輪はとも角、世間の信用がどうなるか考えてみるがよい。更に又、医療資金問題は協同組合運動に株をとられそうだからウッカリ賛否は云えぬ、運動も出来ぬというに至つては凡そ肝も胆もない話ではないか。医療施設に要する資金に正に焦眉の問題である。医界の総意、総力を集めて、もつて財政当局を動かす必要がある。尻の穴の小さいことを言つている時ではない。

SPREADING FACTOR
HYALURONIDASE

(包　装) 単位 5000V.U.M.5Amp.2Amp.

SPRASE

慢性湿疹に優秀な臨床報告發表さる。(東大皮膚科北村教授)第13回日本醫學會總會で同教授は頑固な慢性湿疹の局所治療剤としてスプラーゼ2000單位を湿疹局所に注射することに依り，掻痒湿潤の両者に顕著な効果を確認した。(14例中13例快癒)　大量皮下投與の吸收，擴散促進・瘢痕，硬結を除去す．局所麻酔効達麻酔の强化促進及完全化・特に麻酔され難い慢性病そうの手術の場合・化學療法劑の効果增大・特にペニシリン等の急性，慢性病そ

スプラーゼ